

私費留学 内間 あやめ(うちま あやめ)

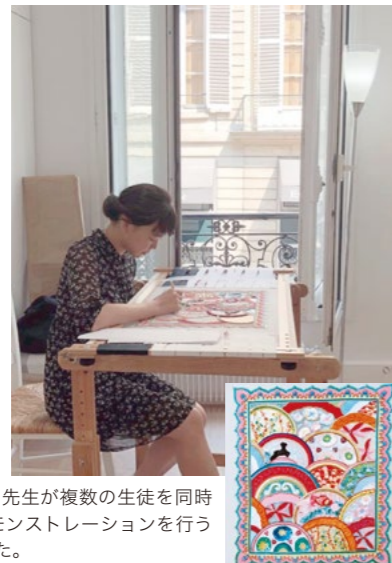
留学の今がわかる在学生インタビュー
interview
フランス

所属:芸術専門学群
留学先国名:フランス
留学先大学名:Ecole Lesage エコール・ルサーージュ刺繍専門学校
留学期間:2017年9月~2018年8月、12ヵ月



●文化や芸術に触れながら学ぶ

オートクチュール刺繍は一点ものの洋服を作るためにフランスで発展した技術です。刺繍糸だけではなく、ビーズやスパンコール、皮、リボン、ラインストーンなどを使って立体的な表現をすることができます。もともと刺繍をすることが好きだった私は、この技法の存在を知った時、やってみたくて強く思ったのと同時に、技術だけでなく、技術が発展したフランスで文化や芸術に触れながら学べたらどんなに楽しいだろうと考えはじめ、実際に計画を立てていきました。実際に学校に行ってみると、この技術を学ぶために様々な国籍・世代の方々が世界中から学びに来ていました。刺繍が好きで、技術をすでに仕事をしている人、アーティストの方など様々です。学校では、先生が複数の生徒を同時に指導していて、ひとりひとりにデモンストレーションを行うなど丁寧な指導を行っていました。



1日のスケジュールを教えてください。

- 09:30...刺繍の授業
- 12:30...授業終了・ランチ
- 13:30...美術館でスケッチなど
- 18:00...フランス語学学校の授業
- 20:00...授業終了
- 21:00...家で夕食・刺繍の課題
- 24:00...就寝

かかった費用を教えてください。

- 学費:60万円(12ヵ月)
- 生活費:アパート+生活費 13万円
- 娯楽:旅行ごと3万円ほど

滞在先はどうでしたか？

パリの16区の7階、5畳ほどしかない小さなアパートに一人で住んでいました。パリに以前から留学していた大学の先輩からの紹介でした。家具や家電付きで8万円程、決して安いとは言えませんが、パリの相場を見るとなかなかいい条件の物件だったと思います。部屋の窓からエッフェル塔の頂上が見え、かろうじてパリに居ることを思い出させてくれます。歩いて5分の大きな通り沿いに毎週水、土曜日の午前中に新鮮な野菜やお肉、魚、チーズが買える野外マルシェが開催され、そこで週に2回買い物をしていました。また、セーヌ川もとても近く、天気の良い日に川沿いを歩くのがお気に入りの休日の過ごし方でした。

現地での印象深い出来事を教えてください。

二人の友人との出会いです。ベネズエラ出身の女の子と同じ刺繍学校で知り合い、上質なビーズやシルクの糸がたくさん売っているお店に連れて行ってもらったり、ジャズコンサートが開催されるガレージで音楽に浸る夜を過ごしたり、野外シネマにお弁当を持って映画を見るなど、パリでしかできない遊び方を教えてもらいました。二人目の友人はロンドンの旅行中に美術館で出会いました。彼女はロンドンに留学に来ているアメリカ人で、ニューヨークでファッションの大学に通っている女の子でした。帰国後にその友人を訪ねるためにニューヨークに行きました。彼女の家に滞在させてもらい、一緒にクリスマスツリーを立てたりアイススケートをしたり、美術館に連れて行ってもらったりと彼女のお気に入りのニューヨークの景色をたくさん見せてもらいました。二人の友人とは今でも連絡を取り合っていて、共通の趣味を持つ良い友人です。



留学先で1ヵ所おすすめの場所を教えてください。

ラ・ヴィレット公園で夏に行われる野外シネマ「cinéma en plein air」です。7月中旬から8月中旬にかけて一ヵ月間、毎晩開催されます。パリの北東にある運河のそばの開放的な場所で大勢の人たちと一つの映画をみるという経験はなかなか日本ではできないことだと思います。ワインや果物、お菓子を食べながら日が落ちて映画が始まるのを待つのもとても良い時間でした。上映される映画は年によってテーマが決まっています。メジャーなものからマイナーなものまで様々です。映画だけでなく、ミュージックビデオが流れる回もあって、その時はみんなで立ち上がり踊っていました。

ハプニングや失敗談はありましたか？

お財布を盗まれてしまったことが留学中の一番の失態でした。パリは治安が悪いことで有名ですが、実際に行ってみて、やはり気をつけるべきだと思います。私の場合、バーの中で荷物を置いたまま音楽を聴きに行ってしまったことが悪かったのですが、スリの人たちはプロなのでどんなに対策をしても盗まれてしまうことはあるとフランス人の友人に教えてもらいました。パリでなくなってしまったものが戻って来ることはほぼないそうなのですが、その時に、どう対応するか、自分の持ち物がなくなってしまったものも事前に考えて準備しておくことで慌てずに対応できるので良いかもしれません。

コレ日本から持って行ってよかった！という物がありますか？

フィルムカメラとフィルムです。日本では見たことのないような貴重な景色を大切に収めたくて、日本で買って持って行きました(カメラもフィルムも日本で買う方が値段も高くなく、質も良いです)。帰国後に現像してみると、写真とともにその時の気持ちも思い出せることができました。

後輩へのアドバイス・メッセージをお願いします。

留学に関わらず、まずは数日でもいいので自分の興味のある国に行ってみることをおすすめします。海外に行くことで人生が変わる！なんて大きな変化を保証することはできませんが、行って帰ってきてみると、自分の中に小さな変化や気づきが生まれてくるのを感じるはず。私の場合、その気づきが、帰国後も自分の考え方に変化を与え続けるきっかけとなっています。

交換留学

金 仁峰(kim inbong)

留学の今がわかる在学生インタビュー
interview
中国

所属:情報学群 情報科学類
留学先国名:中国
留学先大学名:香港中文大学
留学期間:2018年8月~2019年5月、9ヵ月



●香港の印象は多様性

いまアジア諸国の経済成長が大きく注目を集める中で、日本生まれの韓国人として日本語に加え韓国語も話せた私は、さらに英語及び中国語を習得し将来アジアを舞台に国際的に活躍したいと考え、香港への留学を決めました。香港の印象は一言で言うのであれば多様性です。香港は国際都市として大学内にも多くの留学生がいいます。特に私は国際寮に住んでいたため、世界中から来た留学生達と寝食を共にしながら交流を深め、同時に英語や中国語のスピーキングを伸ばすことができました。また私が留学した香港中文大学はアジア屈指の大学であり、世界大学ランキングでも上位なため、現地学生や留学生には優秀な人が多く、彼らとの交流はすごく刺激的でした。



1日のスケジュールを教えてください。

- 08:30...授業
- 12:00...昼食
- 13:00...授業
- 17:00...図書館で勉強
- 23:00...夕食

かかった費用を教えてください。

- 学費:教科書代3万円
- 生活費:生活費6万円/月、寮費15万円/学期
- 娯楽:国際寮での友人との談笑
- マカオのカジノに一回だけ行って1万5千円負けました

滞在先はどうでしたか？

i-houseという名前の国際寮に住んでいました。階ごとでキッチンとトイレは共有で、また部屋は二人、もしくは三人部屋でした。寮の棟は男女共同で留学生が主ですが正規生も三割ほど住んでいます。私の場合は中国人の正規生との二人部屋で、また階ごとに交流スペースがあるので、そこで他のいろいろな人たちと知り合うことができました。香港中文大学には様々な学生寮がありますが、個人的にはi-houseをお勧めしたいです。

現地での印象深い出来事を教えてください。

日本にいる時も留学生や外国から来た人たちと英語を通して話したり友達になったりということはありませんでしたが、言語の壁もあり、会話は表面的なもので終始してしまっていました。しかし留学を通して英語でしっかり話せるようになるにつれ、英語を通して遠い国から来た学生たちと真に心を通わせて交流し、将来にも続くような友達になれたことは、一見些細なことではありますが、数年前まで英語を全く話せなかった自分と比較すると少し感動するような体験でした。



留学先で1ヵ所おすすめの場所を教えてください。

香港には幽霊スポットがいくつかあるのでヒマな時は友達と行ってみたいかもしれません。

ハプニングや失敗談はありましたか？

香港に入る際、学生ビザでなく旅行客ビザで入ってしまったために、あとからもう一回マカオに出国し入りなおすはめになりました。日本人学生で同じように失敗した人が何人かいたようですので、気をつけていただければと思います。あとは慶應の学生のコミュカに最初はびびりますが、仲間にしたら心強いので安心しましょう。

コレ日本から持って行ってよかった！という物がありますか？

特になのですが、海外保険に入っておいて良かったと思いました。香港は治療費が高かったので風邪になった際に助かりました。

後輩へのアドバイス・メッセージをお願いします。

留学を通して少しでも日本の外の世界に触れることは、勉強や言語習得以上に、人生に新たな視点や選択肢を与えてくれるという点で有意義であると思います。そして交換留学は学生にそのチャンスを安いコストで実現させてくれる素晴らしい制度です。留学を通して世界を知るとともに英語のみならず中国語も習得したい学生にとって、香港中文大学は良い選択肢となるはず。ちなみに香港中文大学で中国語をガッツリやりたい人は、一日三時間で1週間毎日行われる香港中文大学の付属の中国語語学学校の授業に参加することができます。そこには語学留学生だけでなく現地でも働く社会人も多くおり、友達の幅が広がるためお勧めです。